発表②　嶺南ブロック代表

「『見よう』とする」　若狭町立上中中学校　２年　玉井　菜月（たまい　なつき）

「見ようとしなければ見えない。」これは、私が読んだ推理小説の一節です。初めから「見る」努力をしなければ、あるはずのものも見えなくなってしまう、ということを表す言葉でした。私は、この言葉が妙に心に残りました。

新聞のテレビ番組表とパズルに目を通すことが私の日課でした。世界の状況だとか、政治についての難しそうなことは、まったく興味がなく、ニュースもあまり気に留めていませんでした。連日、テレビなどで報道されるニュースも、自分には直接関係なく、どこか別の世界の「他人事」だと感じていました。

ところが、ある日のことです。私は社会の勉強の一環で、最近のニュースについて調べていました。すると、次のような記事を見つけました。『スウェーデンの高校生環境活動家グレタ・トゥンベリさんが、環境問題に関するサミットで各国の代表を前に、主要国が十分な温暖化対策をとっていない、と批判した。』というものです。私は、これに大きな衝撃を受けました。私とそう変わらない年で、環境問題に向き合っている人がいること。そして、そのニュースをまったく知らなかった自分自身にもです。記事は1週間以上前のものでした。

そもそも、私は、そんなサミットが開かれていたことも知らず、グレタさんの名前もその日初めて聞きました。さらに今、世界の環境はどのような状態なのかすさえよく分かっていませんでした。それは、今まで世界のことにまったく興味を持ってこなかったからでした。

そんな時です。私が小説のあの一節を思い出したのは。「見ようとしなければ見えない。」この時、私は、自分には関係ないと勝手に切り捨て、世界のことや政治について「見よう」としていなかったことに気がつきました。そして、そんな自分自身が無性に恥ずかしくなりました。私は、驚くほど世の中に出来事に対して無頓着でした。このままでは、世界に置いて行かれるかもしれない。この時、私は、もっと世の中の出来事を「見る」努力をしようと決意しました。

その日から、私は、世の中に目を向ける手段として、毎日、新聞を読み始めました。

新聞は、読んでみると案外面白く、政治や世界のことについて少しずつ興味が湧いてきました。どんなニュースも最低限の知識を身につけると、だんだん理解できるようになってきました。そして、徐々に、今起こっているニュースについて自分の意見が持てるようになってきました。自分の考えを持つと、ニュースの見え方は変わってきます。私は、新聞を通して、政治や世界の様子を知ることが楽しくなっていました。

私は、この体験を通し、もっと外の世界に目を向けて「見ようとする」行動が大切だと学びました。私たちが見ようとしていないだけで、世界は常に様々なことが起きているのです。

そこで、私は、外の世界に目を向ける手段として、私たち中学生は、もっと新聞を読むべきだと思います。子どものうちから、世界が広いことを知り、広い視野を持つことは、これからの人生で役に立つはずです。

新聞には、地域のニュースから世界のニュースまで、たくさんの情報が集まっています。まずは、自分の興味のあるページを読んで、世界が一つ広がる楽しさを一緒に感じてほしいです。

私は、「見ようと」行動したことで、今まで見えていなかった社会の側面を知りました。そして、自分の世界の小ささに気がつきました。「知る」ことは「変わる」ということです。私はこれから、たくさんのことを知り、自分の視野と世界を広げていきたいと思います。あなたにも、きっと「知る」ことで広がる世界があるはずです。

皆さんも、もっと世界のことを「見よう」としてみませんか。